

## 2022年3月22日にシリル・ラマポーザ大統領が発表した 新型コロナウイルス感染防止対策に関する声明（抜粋）

- これまでの感染やワクチン接種により、人口の60～80%が免疫を獲得したこと、成人人口の48%が少なくとも1回のワクチン接種を終えていることなどを踏まえ、南アフリカ政府は国家非常事態宣言を解除する方向で、保健省が発令した公衆衛生に関する規制についての公聴会を催す。
- これと同時に、現在の感染警戒レベル1による規制内容をさらに緩和することを決定。具体的には：
  - 集会における収容人数制限を屋内・屋外ともに最大の50%まで緩和。ただし入場時にワクチン接種証明書か72時間以内の検査に基づく陰性証明書の提示が条件となる。
  - ワクチン接種証明書や陰性証明書が確認されない場合、最大収容人数は従来通り屋内で1,000人、屋外で2,000人までとなる。
  - 葬式への参列が許可される最大人数はこれまでの100人から200人へ緩和。
  - 通夜、葬儀後の催しについては引き続き禁止。
  - 公共の屋内施設における適切な（鼻と口を覆う）マスク着用義務は継続。ただし屋外での散歩や運動時、屋外イベント会場でのマスクの着用は不要とする。
  - あらゆる場面で確保すべきソーシャルディスタンスは最低1メートルへ変更。ただし学校は除外。
  - 南アフリカへ入国する旅行者はワクチン接種証明書、または出国前72時間以内のPCR検査に基づく陰性証明書の提示が必要。ワクチン未接種の旅行者には希望に応じてワクチン接種を提供（ワクチン接種証明書があればPCR検査は不要となる）。
- これらの変更に伴い、南アフリカにおける社会・経済活動の規制はほぼ全て解除される。
- 60歳以上の人口の68%がワクチン接種を終えている一方で、18～35歳のワクチン接種率は35%に留まっており、さらなる規制緩和を進めるにはワクチン接種率を高めることが必要。また接種済みの人へはブースター接種を推奨。